

ゆめ わらゆ 夢 亭

菅波 茂

2012年8月26日。モンゴル国首都ウランバートルのバンダルジャン地区にて日本モンゴル友好病院開院式が行われた。院長はAMDAMONゴル支部長のオウチンメグ医師。AMDAMONゴル支部設立から12年。彼女の夢の実現である。

この地区はウランバートルの郊外に位置し、地方から職を求めてきた貧しい人たちが多く。国営クリニックはあるが医療機能は高くない。当病院は内科、小児科、歯科などを備えた入院ベッド30床。血液検査、心電図、超音波検査などを整備。

モンゴルで唯一の国立医科大学である健康科学大学の臨床研修施設もめざしている。

8月27日には台湾とウランバートルのロータリークラブ合同による貧しい家庭の子どもへの無料検診を実施した。日本とは総社市の高杉こどもクリニックなど複数の医療機関と提携。AMDAMON支部も医療ミッションを派遣予定。国際的視野からの治療と医学生の臨床研修に加えて、モンゴル国内外の災害支援拠点病院となることが目的である。開設までに支援をいただいた方々にこの紙

日本モンゴル友好病院開設

面を借りて感謝したい。2000年にAMDAMONゴル支部開設以来、モンゴル眼科医協会との協力のもとに、ハルハ川

戦争（日本ではノモンハン事件）関係者の白内障手術、日本からの専門家を派遣による眼科医に対する子どもたちの斜視や弱視早期発見セミナー、眼科医の日本での研修招聘などを実施している。将来的には検眼士養成学校を設立したい。

なお、2008年から第二次世界大戦のモンゴル国内における日本とモンゴルの死者の慰霊（AMDAMON医療と魂のプロگرام）として、神道系の宗教団体「おおもと」と実施してきた世界平和記念祭のパートナーであるガンタン寺（モンゴル最

開院式で握手する筆者（左）とAMDAMONゴル支部長オウチンメグ医師



大の仏教寺院）が目のお音様を祭っているのは偶然とは思えない。更に、ガンタン寺ロータスプログラムとしても拡充したい。ちなみに、モンゴルはチベット仏教国である。ソ連邦社会主義時代に仏教の大弾圧で多数の僧侶を殺害。1990年の独立から苦難の復興途上にある。指導層は40歳代と若い。

一方、1998年には日本バンダラデッシュ友好病院が首都ダツカに開院。院長は東大で博士号を修得したナイム医師。現在は80床で23名の医師が勤務する有数の民間病院である。2004年には日本アファギニタン友好クリニックが首都カプールに開院。院長はAMDAMONのアフガン難民救援活動に協力してくれたラヒミ医師。モンゴルのオウチンメグ医師は私が東大大学院非常勤講師の時の学生だった。いずれの医療機関にも開設資金を個人的に貸与。意欲と能力があれば機会（お金か地位）が与えられて自己実現する「人生の喜びの方程式」の実施である。最大の義務は災害支援拠点病院である。（AMDAMONグループ代表）

必ず災害支援に医療チームを派遣してくれる。信頼の国際相互扶助ネットワークへと発展している。

私の夢はブルースポットアライアンス（蒙古斑同盟）緊急医療チーム発足をチンギスハン生誕の地で行うことである。参加国は日本、北朝鮮、モンゴル、ハンガリー、フィンランドなど。ちなみに、モンゴルのオルホン渓谷がオスマントルコ発祥の地である。トルコおよびトルコ語系国家（カザフスタン、ウズベキスタン等々）とも共同で、モンゴルを起点として、市民参加型人道支援外交を展開するの更なる夢である。幻想だろうか。